

モンゴルの地下資源開発と外界への輸送（要旨）

NEANET 会長
花田 磨公

(1) 地下資源開発

モンゴルは、独立の歴史的経緯、人口、経済力等により北東アジア国際政治において重要視されていなかったが、近年資源大国への道を歩みはじめ無視できない存在となりつつある。そもそもモンゴルは1921年独立直後から資源開発を重視し、牧地牧畜経済と地下資源開発を車の両輪として発展してきた。市場経済移行後に開発が活発化している諸鉱山も、社会主義時代の探査により作成された1990年のアトラスに網羅されており、この地図上に示されている鉱山が今後さらに開発されていく蓋然性が高い。

現在注目を集めているモンゴルの地下資源には、石炭、石油、銅金鉱山、鉄鋼、亜鉛、ウラン及びレアメタルのモリブデン、タングステンなどがある。レアメタル、レアアースについては他の地下資源の副産物として得られるので、今後の地下資源開発の進展に期待される。

(2) オヨートルゴイ銅金鉱山

銅金鉱山については社会主義時代に旧ソ連との合弁で1978年から開発されたエルデネット鉱山があり、同鉱山は生産が予定されている37年の期間が終了に近づいている。それにかわり、近年最南端のウムノゴビ県の国境地帯（中国国境から80km）で世界一の埋蔵量を有するオヨートルゴイ銅金鉱山が開発され注目されている。同鉱山はカナダのIvanhoe社が開発し、Rio Tinto社が現地法人のTurquoise Hill Resources Ltd社に投資し参加する形で経営している。この鉱山は、Turquoise Hill Resources Ltd社が66%、モンゴル政府が34%の所有であり、確定・推定埋蔵量約15億トンといわれている。サイトは中国国境から80kmの地点である。

同鉱山の開発はモンゴルに大きな利益をもたらしており、2020年までにモンゴル政府に入る収入（royaltyとtax）は11億ドルと予測されている。モンゴル政府は同鉱山の持ち分を増額するよう努力している。

(3) タバントルゴイ炭鉱

最近ザブハン県で石炭が産出し、石炭のない県はなくなった。推定埋蔵量は1,623億トンといわれる。近年開発が進み注目をあつめているモンゴル最大のタバントルゴイ炭鉱は埋蔵量60億トンで、96%がモンゴル政府の所有である。サイトはオヨートルゴイ銅金鉱山の近くで、ウムノゴビ県の中国国境より245kmの地点に立地している。現在産出された石炭は、100%中国に輸出されている。鉱山渡りで1トンあたり25ドル前後といわれ、中国の最終価格の4-8分の1で取引されているのでモンゴル政府は中国以外の外部市場に期待している。

(4) ダルハン石油

2005年からドルノド県タムサグにおいてPetro China Daichin Tamsag社が年間100万トン、日に5,000バレルの原油を加工して中国大慶製油所に向け輸出している。他方モンゴルは石油輸入国で、2012年において、自動車ガソリン38.9万トン、ディーゼル油71.6万トン、航空燃料3.6万トンを輸入している。石油会社のほとんどは販売に従事して成長したものである。そこでモンゴルは自国資本による独自の石油生産を目指して2011年「ダルハン石油」

を起業し、石油工場の建設を開始した。これには日本政府より長期低利貸付を得ており、丸紅、東洋エンジニアリングが参加している。

(5) 金

モンゴルの金の埋蔵量は、国内 21 カ所に 3,400 トンあるといわれている。2011 年における金の生産量が 5.7 トンでありこのうち 2.7 トンが輸出された。2005 年の 24.1 トン（うち輸出量 23.8 トン）をピークに年々生産量が落ちているのは、金にかけられる税率が高いためとされる。

(6) レアアース・レアメタル等

モンゴルにおいては地下資源開発の副産物として産出される各種レアアース、レアメタルが存在し、モリブデン等が生産されている（2012 年約 4,000 トン）。そのほか、ホタル石、タングステン、亜鉛等の生産がおこなわれ、輸出されている。

(7) ウラン

モンゴルにおいてはウランが豊富に埋蔵されており、ドルノド県マルダイ、ゴルバンボラグ、ハラート、ハイルハン、ドラーン・オールなどに約 75,000 トンが埋蔵されているといわれる。

(8) 貿易

2011 年輸出総額 48.2 億ドル中対中国輸出 44.4 億ドル、輸入総額 66 億ドル中、中国からの輸入 20.2 億ドルと中国依存度が極度に高い。

2012 年速報値による主な地下資源の輸出先は次の通り（単位百万ドル）。

亜鉛	: ①中国	全量	13.1
選鉱銅	: ①中国	全量	838.8
鉄鉱石	: ①中国	全量	532.5
石炭	: ①中国	1,875.0	②ロシア 0.2
モリブデン	: ①英国	30.7	②韓国 6.6 ③メキシコ 0.8
ホタル石	: ①ロシア	62.3	②中国 37.6 ③ウクライナ 1.0
金	: ①スイス	5.5	

(9) 貿易環境

モンゴルは内陸国であり、外洋に出るにはロシア、中国のいずれかを經由せねばならない。そのような立地条件が輸出の中国偏重を生んでいる。経済安全保障の観点からも（民間信仰の中心たるチベット仏教の高僧ダライ・ラマの訪問時に中国国境が閉鎖されガソリン等生活用品の供給がピンチになったこともあり）、米国、日本等を第三の隣国と称しバランスのとれた外交の実現に努めている。海洋法では、内陸国は隣接国の援助を得ることができるとしているが、現実とは異なり、例えば、中国経由の場合、日本からモンゴル向けの貨物は無税だが、モンゴルから日本向けの貨物には増徴税、輸出税併せて 27%が課税されるといわれる。

(10) 鉄道新線計画

従来の南北縦断の「ウランバートル鉄道」（ロシアと合弁各 50%所有）に加え、地下資源を外部へ搬出するため、100%自国資本の「モンゴル鉄道」が設立された。同社は東西に敷設する新線と外界への接続線を建設する計画で、資金調達を含め日本を中心として外国の協力を求め開発中である。外港として、ロシアのザルビノ港、中国の丹東港などが検討されている。